

中期 第6学年前半③	単元名 : He is famous. She is great. Unit-3 (We Can!2) 【4/5 時間】
	主となる指導項目 : Writing

本時のねらい

・語順を意識して、例を参考にある人物を説明するための紹介文を作ることができる。

【収録されている活動 (◆:本時のねらいにつながる主となる活動)】

【好きなキャラクターをたずね合おう】

HRT と ALT のデモンストレーションを参考に、友達同士で会話をするので、既習表現を使った即興的なやり取りができるようにします



【好きなキャラクターをたずね合おう (Small Talk)】

- ☆単元の終末に作成するクイズの内容につながる内容を中心に組み立てる。「誰かになりきって」話をするのではなく、自分自身に関する本当の出来事や気持ちを話すようやり取りさせる。
- ☆場面設定を明確にすると、会話に必然性が生まれる (今回はクリスマスプレゼントを考える場面)。
 “I want to give some presents to ○○先生.” “What character do you like?”
- ☆児童同士の Small Talk を長く続けるためのコツを確認する。
 (対話のはじめの挨拶 → 繰り返し → 一言感想 → 質問 → 対話の終わりの挨拶 など)
- ☆1 回目の対話後に、何と表現したらいいかわからなかった言葉はないかと尋ね、全体でどう表現できるかを考える。例えば、「大きな目はなんと言うのか？」などを児童自身が習った言葉を使って表現できる方法を考えることに価値がある。



【誰のことが考えよう】

デジタル教材を繰り返し聞き、質問の仕方やヒントの出し方を考えさせます



【誰のことが考えよう : Let's Listen 1】

- ☆音声クイズを聞く前に、HRT が作ったクイズを見せて、どんなことをするのかを理解させてから、クイズに入っていく。この活動を通して、後に行う「Who is this? クイズ」につなげていく。
- ☆単なる聞き取り練習にならないように、児童が聞き取れた語や表現などを確認し、「Do you like ○○?」「What character do you like?」「Why?」など、聞き取ったことや答えのキャラクターについて HRT が児童とやり取りをする。(このやり取りが、Who is this? クイズを作る際のヒントや材料となる。)
- ☆「もう一回聞きたい?」「One more time?」など児童に既習のクラスルームイングリッシュの使用場面に気づかせる。また、「こんな時、「Hint, please.」が使えるよね。」「クイズをする時も、問題を聞くだけではわからない時にも使えるね!」などのアドバイスをし、単元終末の活動につなげていく。
- ☆答えが先にわかった児童には、自分で考えたヒントを出させることで、全員が考える場面が設定できる。



◆【クイズを作ろう】

語順を意識させながら、文を書き写させることで、自分の言いたいことを書いて表現させます



【クイズを作ろう】

- ☆これまでの活動で学習した語順への気づきを生かして、クイズの文を作らせる。(書く活動について)
- ☆4 線を使って、いきなり文章を書くのではなく、巻末絵カードを活用し、語順を意識させながら、実際にカードを並べさせ、可視化しながら文を書き写させる。
- ☆書き写す際には、文の書き方の決まりを意識させる。
 (語と語の間、四線上での位置、大文字や小文字の区別、ピリオドなど)

* あいさつ、振り返り等は省略しています